

安全データシート

デュポン・東レ・スペシャルティ・マテリアル株式会社

化学品の名称（製品名）：MOLYKOTE® TP-42 Paste

発行日：2022/07/18

印刷日：2023/06/23

デュポン・東レ・スペシャルティ・マテリアル株式会社は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M)SDSを熟読され、ご理解されるようお願いしております。使用条件によって他の対応を必要とする場合以外は、記載注意事項を遵守されるようお願い致します。

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称（製品名）：MOLYKOTE® TP-42 Paste

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途：潤滑剤および潤滑剤添加物

使用上の制限：情報無し。

供給者の会社名称・住所

デュポン・東レ・スペシャルティ・マテリアル株式会社

100-6111

東京都千代田区永田町2丁目11番1号

電話番号：

81 3 62058900

SDSQuestion-AP@dupont.com

緊急連絡電話番号

24時間対応緊急連絡先：0120 814 221

緊急連絡電話番号：0120-814-221

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

本製品は、化学品の分類及び表示に関する世界調和システム（GHS）に基づく危険有害性ではない。

GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険有害性

データなし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

製品は混合物です。

化学名又は一般名

CASRN

化審法番号 安衛法番号

濃度又は濃度範囲

水酸化カルシウム	1305-62-0	1-181	(1)-181	>= 40.0 - < 50.0 %
ホワイトミネラルオイル(石油)	8042-47-5	(9)-1694, (9)-1702, (9)-1700	(9)-1692	>= 30.0 - < 40.0 %
水素化ナフテン精製物(石油類)	64742-52-5	(9)-1692	(9)-1692	>= 10.0 - < 20.0 %
溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分	64742-65-0	9-1692	(9)-1692	>= 1.0 - < 10.0 %
固形パラフィン	8002-74-2	8-414	(8)-414	>= 1.0 - < 10.0 %
12-ヒドロキシステアリン酸リチウム	7620-77-1	2-1416	(2)-1416	>= 1.0 - < 10.0 %
水素処理重パラフィン系石油留分	64742-54-7	(9)-1692	(9)-1692	>= 1.0 - < 10.0 %

4. 応急措置

必要な応急措置

一般的アドバイス：

応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服（耐薬品手袋、飛沫防護）を使用する。ばく露する可能性がある場合は、第8項の保護具の情報を参照。

吸入した場合：直ちに新鮮な空気の場所へ移動させ、影響があれば医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合：多量の水で洗い流す。

眼に入った場合：数分間眼を徹底的に水で洗い流す。1～2分洗眼してからコンタクトレンズをはずし、さらに数分洗い続ける。症状があれば、医師の診察を受ける。眼科医が望ましい。

飲み込んだ場合：誤飲した時は、医師の診察を受ける。医師の指示がない限り、嘔吐させない。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：

上記の応急措置の記述、下記の緊急治療及び必要とされる特別処置の指示に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目11の有害性情報に記載されている。

緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

医師に対する特別な注意事項：特別な解毒剤はない。ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨時的処置を行う。

5. 火災時の措置

適切な消火剤： 水噴霧 耐アルコール泡消火剤 二酸化炭素（CO2） 粉末消火剤

使ってはならない消火剤： 知見なし。

火災時の特有の危険有害性

有害燃焼副産物： 金属酸化物 炭素酸化物 リンの酸化物 ホルムアルデヒド

異常な火災および爆発の危険： 燃焼生成物への曝露は健康に害を及ぼす場合がある。

消防士へのアドバイス

特有の消火方法： 現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。安全であれば未損傷コンテナを火災領域から離す。区域から退避させること。

消火活動を行う者の特別な保護具： 消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置： 安全な取り扱いの助言や、個人保護具の推奨事項に従う。

着火源の除去： 発火源から遠ざけること。

粉塵管理注意事項： 浮遊粉塵の発生を最小限にするよう注意する。

環境に対する注意事項： 環境への放出は必ず避けなければならない。安全を確認してから、もれやこぼれを止める。汚染された洗浄水を保管し、処分する。流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材： 拭き取り、こすってきれいにした後、容器に回収し処理する。本製品を放出、廃棄する際には、各地方自治体および国の規則に従って処理すること。その放出に使用された物質についても同様である。どの規則が適用されるかを確認する必要がある。多量にこぼれた場合、防液堤を築く等の適切な封じ込め手段を講じて、広がらないようにすること。防液堤に使用した資材をポンプで吸い上げることができる場合には、回収した物質を適切な容器内に保管する。本 SDS の項目 13 および 15 において、地方自治体および国の法規制の記載あり。
以下の項目を参照のこと：7、8、11、12 および 13

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

局所換気を行い使用する。ばく露防止及び保護措置の項の設備対策を参照。

安全取扱注意事項

皮膚への長期のまたは反復接触を避ける。漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。

接触回避

情報無し。

衛生対策

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。衛生状態を良好に保つ。作業場所での飲食や、食物の保管をしないこと。喫煙や食事の前には手を洗う。

保管

安全な保管条件

適切なラベルのついた容器に入れておく。施錠して保管すること。栓をしっかり閉める。涼しい、換気の良い場所で保管する。各国の規定に従って保管する。

次の製品種類といっしょに保管しない： 強酸化剤。

安全な容器包装材料

容器に不適な素材： 知見なし。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

ばく露限界値が存在する場合は以下に記載されている。ばく露限界が表示されていない場合は適用しない。

化学名又は一般名	国際規制	リストのタイプ	価値
水酸化カルシウム	ACGIH	TWA	5 mg/m ³
ホワイトミネラルオイル(石油)	ACGIH	TWA 吸入濃度	5 mg/m ³
	詳細情報：URT irr: 上気道の炎症; A4: ヒト発がん性物質としては未分類		
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M ミスト	3 mg/m ³
	詳細情報：ψ: 発がん以外の健康影響を指標として許容濃度が示されている物質。 III. 発がん性分類の前文参照; 1: 発がん物質, 「第1群」はヒトに対して発がん性があると判断できる物質である。この群に分類される物質は、疫学研究からの十分な証拠がある。		
水素化ナフテン精製物(石油類)	ACGIH	TWA 吸入濃度	5 mg/m ³

2022/07/18

	詳細情報：URT irr: 上気道の炎症; A4: ヒト発がん性物質としては未分類		
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M ミスト	3 mg/m3
	詳細情報：ψ: 発がん以外の健康影響を指標として許容濃度が示されている物質。 III. 発がん性分類の前文参照; 1: 発がん物質, 「第1群」はヒトに対して発がん性があると判断できる物質である。この群に分類される物質は、疫学研究からの十分な証拠がある。		
溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分	ACGIH	TWA 吸入濃度	5 mg/m3
	詳細情報：URT irr: 上気道の炎症; A4: ヒト発がん性物質としては未分類		
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M ミスト	3 mg/m3
	詳細情報：ψ: 発がん以外の健康影響を指標として許容濃度が示されている物質。 III. 発がん性分類の前文参照; 1: 発がん物質, 「第1群」はヒトに対して発がん性があると判断できる物質である。この群に分類される物質は、疫学研究からの十分な証拠がある。		
	日本産業衛生学会 (許容濃度)		詳細情報参照
	詳細情報：1: 発がん物質, 「第1群」はヒトに対して発がん性があると判断できる物質である。この群に分類される物質は、疫学研究からの十分な証拠がある。		
固形パラフィン	ACGIH	TWA	2 mg/m3
	詳細情報：URT irr: 上気道の炎症; nausea: 吐き気		
	ACGIH	TWA ヒューム	2 mg/m3
12-ヒドロキシステアリン酸リチウム	ACGIH	TWA 吸入濃度	10 mg/m3
	詳細情報：LRT irr: 下気道の炎症; J: 有害金属のステアリン酸塩を含まない。; A4: ヒト発がん性物質としては未分類; varies: 変わる		
	ACGIH	TWA 呼吸濃度	3 mg/m3
	詳細情報：LRT irr: 下気道の炎症; J: 有害金属のステアリン酸塩を含まない。; A4: ヒト発がん性物質としては未分類; varies: 変わる		
水素処理重パラフィン系石油留分	ACGIH	TWA 吸入濃度	5 mg/m3
	詳細情報：URT irr: 上気道の炎症; A4: ヒト発がん性物質としては未分類		
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M ミスト	3 mg/m3
	詳細情報：ψ: 発がん以外の健康影響を指標として許容濃度が示されている物質。 III. 発がん性分類の前文参照; 1: 発がん物質, 「第1群」はヒトに対して発がん性があると判断できる物質である。この群に分類される物質は、疫学研究からの十分な証拠がある。		

曝露防止

設備対策: 局所排気装置や他の排気装置を使用して、気中濃度が許容濃度や管理濃度より低くなるように管理する。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、通常の作業は全体換気を行うことで十分である。

保護具

呼吸用保護具: 許容濃度や管理濃度を超える可能性がある場合、呼吸器保護具を着用すること。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、呼吸器刺激や不快感等がある場合、又はリスク評価において必要であると示された時、呼吸器保護具を着用する。

手の保護具：この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。注意：特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある：取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件（切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護）、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

眼／顔面の保護具：安全メガネ（サイドシールド付）を着用する。

皮膚及び身体の保護具：この物質に耐薬品性のある保護衣を着用する。作業内容に応じて、顔面シールド、長靴、エプロンまたは全身防護服などの保護具を選択する。

特別な注意事項

情報無し。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理状態	ペースト
色	白色
臭い	なし
臭いの閾値	データなし
pH	非該当
融点	データなし
凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	
沸点／沸騰範囲	非該当
引火点	セタ密閉式引火点試験 >100 °C
蒸発速度（ブチルセーテ=1）	非該当
可燃性	引火の危険性として分類されていない
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	
爆発範囲の下限	データなし
爆発範囲の上限	データなし
蒸気圧	非該当
相対ガス密度	データなし
密度及び／又は相対密度	1.1
溶解度	
水への溶解度	(データなし)
粒子特性	
アセスメント	情報無し。
粒子サイズ	備考: データなし
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	データなし

自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度	非該当
動粘性率	非該当
爆発特性	非爆発性

酸化特性	本製品は酸化性物質としては分類されない。
分子量	データなし

その他のデータ

注記： 上記の物理データは、代表値であり、仕様として解釈されるべきものではない。

10. 安定性及び反応性

反応性：反応性危険としては分類されない。

化学的安定性：通常の状態では安定。

危険有害反応可能性：強い酸化剤と反応することがある。

避けるべき条件：知見なし。

混触危険物質：酸化剤

危険有害な分解生成物：1-ブテン。

11. 有害性情報

本項にはデータが存在する場合に毒性情報が記載される。

急性毒性

急性毒性（経口）

製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。

急性毒性（経皮）

製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。

急性毒性（吸入）

製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。

皮膚腐食性／刺激性

皮膚刺激なし

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

眼への刺激なし

呼吸器感作性又は皮膚感作性

製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質（単回ばく露）としては未分類。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。

発がん性

製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。

催奇形性

製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。

生殖毒性

製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。

生殖細胞変異原性

製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。

誤えん有害性

製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。

毒性分析に影響を与えるコンポーネント：**水酸化カルシウム****急性毒性（経口）**

LD50, ラット, > 2,000 mg/kg OECD 試験ガイドライン 425

急性毒性（経皮）

類似する物質から得られたデータに基づく LD50, ウサギ, > 2,500 mg/kg OECD 試験ガイドライン 402

急性毒性（吸入）

LC50 は決められていない。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性：

関連のあるデータは得られていない。

呼吸器感作性：
関連のあるデータは得られていない。

発がん性
類似物質について 動物試験では発がん性はなかった。

催奇形性
関連のあるデータは得られていない。

生殖細胞変異原性
インビトロでの遺伝毒性試験は陰性であった。

ホワイトミネラルオイル(石油)

急性毒性（経口）
LD50, ラット, > 5,000 mg/kg OECD 試験ガイドライン 401

急性毒性（経皮）
LD50, ウサギ, > 2,000 mg/kg OECD 試験ガイドライン 402 この濃度では死に至らない。

急性毒性（吸入）
ミストにより、上気道(鼻と喉)および肺に重度の刺激を起こすことがある。物性上、蒸気は発生しにくい。鉱油のミストに過剰暴露すると、肺障害(リポイド肺炎)を起こすことがある。過剰暴露は下記の症状を引き起こすことがある： 協調障害。

LC50, ラット, オスおよびメス, 4 h, 粉じん/ミスト, > 5 mg/l OECD 試験ガイドライン 403

呼吸器感作性又は皮膚感作性
モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。

呼吸器感作性：
関連のあるデータは得られていない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）
入手可能なデータによると、繰り返し暴露で、追加的な顕著な有害影響は予期されない。

発がん性
動物試験では発がん性はなかった。

催奇形性
動物試験で、催奇形性はなかった。

生殖毒性
動物試験では、生殖を阻害しなかった。

生殖細胞変異原性
インビトロでの遺伝毒性試験は陰性であった。

誤えん有害性

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

水素化ナフテン精製物(石油類)

急性毒性（経口）

LD50, ラット, > 5,000 mg/kg

急性毒性（経皮）

LD50, ウサギ, > 2,000 mg/kg

急性毒性（吸入）

過剰暴露すると、上気道(鼻と喉)および肺に刺激作用を来すことがある。

LC50, ラット, 3 h, 粉じん/ミスト, > 3.11 mg/l この濃度では死に至らない。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。

呼吸器感作性：

関連のある情報は得られていない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

動物では、経皮暴露により以下の器官に有害作用を及ぼすことが報告されている：
皮膚。

発がん性

動物を用いた皮膚塗布試験で腫瘍が発生した。 ヒト発がん性としては格づけできない。

催奇形性

動物試験で、催奇形性や他の胎児への影響はなかった。

生殖毒性

動物試験では、生殖を阻害しなかった。

生殖細胞変異原性

インビトロ遺伝毒性試験では、陰性結果もあったが陽性結果もあった。 動物遺伝毒性試験は陰性だった。

誤えん有害性

物性上、誤えん有害性は低い。

溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分

急性毒性（経口）

同類物質の代表値。 LD50, ラット, > 5,000 mg/kg

急性毒性（経皮）

同類物質の代表値。 LD50, ウサギ, > 2,000 mg/kg

急性毒性（吸入）

LC50, ラット, オスおよびメス, 4 h, 粉じん/ミスト, > 5 mg/l この濃度では死に至らない。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性：
関連のあるデータは得られていない。

呼吸器感作性：
関連のあるデータは得られていない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

同類物質について：
動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：
肝臓。

発がん性

同類物質について： 動物の皮膚塗布試験で発がん性はなかった。

催奇形性

同類物質の代表値。 実験動物において、母体毒性を示す用量で胎児毒性が認められた。

生殖毒性

同類物質の代表値。 試験動物における限られたデータは、この物質に生殖毒性がないことを示している。

生殖細胞変異原性

同類物質の代表値。 インビトロ遺伝毒性試験の結果は、圧倒的に陰性が多かった。

誤えん有害性

物性上、誤えん有害性は低い。

固形パラフィン**急性毒性（経口）**

LD50, ラット, オスおよびメス, > 5,000 mg/kg OECD 試験ガイドライン 401 この濃度では死に至らない。

急性毒性（経皮）

LD50, ラット, オスおよびメス, > 2,000 mg/kg OECD 402 あるいはそれに準じる方法 この濃度では死に至らない。

急性毒性（吸入）

LC50 は決められていない。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。

呼吸器感作性：
関連のあるデータは得られていない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：
肝臓。

発がん性

動物実験では発がん性への影響は見られなかった。

催奇形性

類似物質について 動物試験で、催奇形性や他の胎児への影響はなかった。

生殖毒性

類似物質について 動物試験では、生殖を阻害しなかった。

生殖細胞変異原性

インビトロでの遺伝毒性試験は陰性であった。 類似物質について 動物遺伝毒性試験は陰性だった。

誤えん有害性

物性上、誤えん有害性は低い。

12-ヒドロキシステアリン酸リチウム**急性毒性（経口）**

LD50, ラット, メス, > 2,000 mg/kg OECD 試験ガイドライン 420 この濃度では死に至らない。

急性毒性（経皮）

LD50, ラット, オスおよびメス, > 2,000 mg/kg OECD 試験ガイドライン 402 この濃度では死に至らない。

急性毒性（吸入）

LC50 は決められていない。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

マウスに接触アレルギーの可能性は認められなかった。

呼吸器感作性：

関連のあるデータは得られていない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

入手可能なデータによると、繰り返し暴露で、顕著な有害影響は予期されない。

発がん性

関連のあるデータは得られていない。

催奇形性

動物試験で、催奇形性はなかった。

生殖毒性

動物試験では、生殖を阻害しなかった。

生殖細胞変異原性

インビトロでの遺伝毒性試験は陰性であった。

誤えん有害性

物性上、誤えん有害性は低い。

水素処理重パラフィン系石油留分**急性毒性（経口）**

同類物質の代表値。 ラット, > 5,000 mg/kg

急性毒性（経皮）

同類物質の代表値。 ウサギ, > 2,000 mg/kg

急性毒性（吸入）

同類物質について： LC50, ラット, 4 h, 蒸気, 2.18 mg/l

呼吸器感作性又は皮膚感作性

同類物質の、モルモットを用いて行った感作試験の結果は陰性だった。

呼吸器感作性：

関連のあるデータは得られていない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

同類物質について：

動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：

肝臓。

発がん性

同類物質の代表値。 動物の皮膚塗布試験で発がん性はなかった。

催奇形性

同類物質の代表値。 実験動物において、母体毒性を示す用量で胎児毒性が認められた。

生殖毒性

同類物質の代表値。 試験動物における限られたデータは、この物質に生殖毒性がないことを示している。

生殖細胞変異原性

同類物質の代表値。 インビトロ遺伝毒性試験の結果は、圧倒的に陰性が多かった。 同類物質について： 動物遺伝毒性試験は陰性だった。

誤えん有害性

物性上、誤えん有害性は低い。

12. 環境影響情報

本項にはデータが存在する場合に生態毒性情報が記載される。

生態毒性

水酸化カルシウム

魚類に対する急性毒性

物質は、水生生物に対して軽度の急性毒性を示す（試験した種のうち最も感受性の高い種では LC50/EC50/EL50/LL50 10~100 mg/L）。

LC50, *Gasterosteus aculeatus*（イトヨ）, 96 h, 457 mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性

EC50, *Daphnia magna*（オオミジンコ）, 48 h, 49.1 mg/l, OECD 試験ガイドライン 202

藻類/水生植物に対する急性毒性

EC50, *Pseudokirchneriella subcapitata*（緑藻）, 72 h, 184.57 mg/l, OECD 試験ガイドライン 201

細菌に対する毒性

EC50, 3 h, 300.4 mg/l, OECD 試験ガイドライン 209

無脊椎動物に対する慢性毒性

最大無影響濃度, 14 d, 32 mg/l

ホワイトミネラルオイル(石油)

魚類に対する急性毒性

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない（試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L）。

LC50, *Lepomis macrochirus*（ブルーギルサンフィッシュ）, 止水式試験, 96 h, > 10,000 mg/l

LL50, *Oncorhynchus mykiss*（ニジマス）, 止水式試験, 96 h, > 100 mg/l, OECD 試験ガイドライン 203

LL50, *Leuciscus idus*（コイの一種）, 止水式試験, 96 h, > 10,000 mg/l, OECD 試験ガイドライン 203

無脊椎動物に対する急性毒性

LL50, *Daphnia magna*（オオミジンコ）, 止水式試験, 48 h, > 100 mg/l, OECD 試験ガイドライン 202

水素化ナフテン精製物(石油類)

魚類に対する急性毒性

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない（試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L）。

LC50, *Oncorhynchus mykiss*（ニジマス）, 止水式試験, 96 h, > 1,000 mg/l, OECD テストガイドライン 203 あるいは同等のもの

LC50, *Oncorhynchus mykiss*（ニジマス）, 96 h, > 5,000 mg/l, OECD テストガイドライン 203 あるいは同等のもの

無脊椎動物に対する急性毒性

EC50, *Daphnia magna*（オオミジンコ）, 止水式試験, 48 h, > 1,000 mg/l, OECD テストガイドライン 202 あるいは同等のもの

EC50, scud (*Gammarus* sp.), 96 h, > 10,000 mg/l, 方法不特定.

藻類/水生植物に対する急性毒性

EbC50, 藻 (*Senedesmus* sp.), 止水式試験, 96 h, バイオマス, > 1,000 mg/l, OECD テストガイドライン 201 あるいは同等のもの

魚類に対する慢性毒性

最大無影響濃度, *Pimephales promelas*（ファットヘッドミノウ）, 7 d, 成長, > 5,000 mg/l

無脊椎動物に対する慢性毒性

最大無影響濃度, *Daphnia magna*（オオミジンコ）, 21 d, 子孫の数, > 1,000 mg/l

溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分

魚類に対する急性毒性

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない（試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L）。

LL50, *Pimephales promelas*（ファットヘッドミノウ）, 止水式試験, 96 h, > 100 mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性

EL50, *Daphnia magna*（オオミジンコ）, 止水式試験, 48 h, > 10,000 mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性

最大無影響濃度, *Pseudokirchneriella subcapitata*（緑藻）, 止水式試験, 72 h, 成長速度, > 100 mg/l

細菌に対する毒性

類似する物質から得られたデータに基づく

最大無影響濃度, 10 min, > 1.93 mg/l, DIN 38 412 Part 8

無脊椎動物に対する慢性毒性

類似する物質から得られたデータに基づく

最大無影響濃度, *Daphnia magna*（オオミジンコ）, 21 d, 10 mg/l

固形パラフィン

魚類に対する急性毒性

成分の情報による：

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない（試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L）。

無脊椎動物に対する急性毒性

EL50, *Daphnia magna*（オオミジンコ）, 止水式試験, 48 h, > 1,000 mg/l, OECD 試験ガイドライン 202

藻類/水生植物に対する急性毒性

類似物質について

NOELR, *Pseudokirchneriella subcapitata*（緑藻）、止水式試験, 72 h, 成長速度, > 100 mg/l, OECD 試験ガイドライン 201**12-ヒドロキシステアリン酸リチウム****魚類に対する急性毒性**

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない（試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L）。

LC50, *Oncorhynchus mykiss*（ニジマス）、半止水式試験, 96 h, > 100 mg/l, OECD 試験ガイドライン 203**無脊椎動物に対する急性毒性**EC50, *Daphnia magna*（オオミジンコ）、止水式試験, 48 h, > 100 mg/l, OECD 試験ガイドライン 202**藻類/水生植物に対する急性毒性**EC50, *Pseudokirchneriella subcapitata*（緑藻）、止水式試験, 72 h, 成長速度, > 160 mg/l, OECD 試験ガイドライン 201**水素処理重パラフィン系石油留分****魚類に対する急性毒性**

同類物質の代表値。

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない（試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L）。

同類物質について：

LC50, *Oncorhynchus mykiss*（ニジマス）、半止水式試験, 96 h, > 100 mg/l**無脊椎動物に対する急性毒性**

同類物質について：

EC50, *Daphnia magna*（オオミジンコ）、半止水式試験, 48 h, > 100 mg/l**無脊椎動物に対する慢性毒性**最大無影響濃度, *Daphnia magna*（オオミジンコ）、半止水式試験, 21 d, 子孫の数, 10 mg/l**残留性・分解性****水酸化カルシウム**

生分解性：関連のあるデータは得られていない。

ホワイトミネラルオイル(石油)

生分解性：厳格な OECD 試験において、この物質は易分解とは分類されないが、しかしこれらの結果は、この物質が環境中で生分解しないと必ずしも意味するものではない。物質は本質的に生分解性である。OECD の本質的生分解性試験では生物分解は 20%を超える。

10-day Window: 不合格

生分解：0 - 24 %

曝露時間：28 d

方法：OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの

理論酸素要求量：3.50 mg/mg

光分解性

試験タイプ：半減期（間接光分解）

感作性物質：OH ラジカル

大気中半減期：1.291 d

方法：推定値。

水素化ナフテン精製物(石油類)

生分解性：物質は難分解性であると考えられる（環境中）。生分解性に関する OECD/EEC 試験では易分解性にならなかった。物質は本質的に生分解性である。OECD の本質的生分解性試験では生物分解は 20%を超える。

10-day Window: 不合格

生分解：6 %

曝露時間：28 d

方法：OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの

10-day Window: 不合格

生分解：22 - 51 %

曝露時間：21 - 28 d

光分解性

試験タイプ：半減期（間接光分解）

感作性物質：OH ラジカル

溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分

生分解性：物質は難分解性であると考えられる（環境中）。生分解性に関する OECD/EEC 試験では易分解性にならなかった。

10-day Window: 不合格

生分解：2 %

曝露時間：28 d

方法：OECD テスト ガイドライン 301B

固形パラフィン

生分解性：物質は易分解性である。OECD 易分解性試験に合格している。

10-day Window: 合格

生分解：80 %

曝露時間：28 d

方法：OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの

12-ヒドロキシステアリン酸リチウム

生分解性：物質は易分解性である。OECD 易分解性試験に合格している。

10-day Window: 合格

生分解：78 %

曝露時間：28 d

方法：OECD テスト ガイドライン 301C

水素処理重パラフィン系石油留分

生分解性：同類物質について： 厳格な OECD 試験において、この物質は易分解とは分類されないが、しかしこれらの結果は、この物質が環境中で生分解しないと必ずしも意味するものではない。

10-day Window: 不合格

生分解： 1.5 - 29 %

曝露時間： 28 d

方法： OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの

生体蓄積性**水酸化カルシウム**

生体蓄積性： 非該当

ホワイトミネラルオイル(石油)

生体蓄積性： 生物濃縮の可能性は高い。(BCF>3000、Log Pow : 5-7)

n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): 5.18 測定値

生物濃縮因子 (BCF) : 1,900 魚類

水素化ナフテン精製物(石油類)

生体蓄積性： 生物濃縮の可能性は高い。(BCF>3000、Log Pow : 5-7)

n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): 3.9 - 6 推定値。

溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分

生体蓄積性： 生物濃縮の可能性は高い。(BCF>3000、Log Pow : 5-7)

n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): 3.9 - 6 推定値。

固形パラフィン

生体蓄積性： 生物濃縮の可能性は高い。(BCF>3000、Log Pow : 5-7)

n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): > 6 計算値。

12-ヒドロキシステアリン酸リチウム

生体蓄積性： 関連のあるデータは得られていない。

水素処理重パラフィン系石油留分

生体蓄積性： 同類物質について： 生物濃縮の可能性は低い。(BCF<100, Log Pow>7)

土壤中の移動性**水酸化カルシウム**

関連のあるデータは得られていない。

ホワイトミネラルオイル(石油)

土壤中移動性が小さい(Koc 500~2000)。

分配係数 (Koc): 510 推定値。

水素化ナフテン精製物(石油類)

データなし。

溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分

関連のあるデータは得られていない。

固形パラフィン

関連のあるデータは得られていない。

12-ヒドロキシステアリン酸リチウム

関連のあるデータは得られていない。

水素処理重パラフィン系石油留分

関連のあるデータは得られていない。

オゾン層への有害性**水酸化カルシウム**

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

ホワイトミネラルオイル(石油)

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

水素化ナフテン精製物(石油類)

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

固形パラフィン

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

12-ヒドロキシステアリン酸リチウム

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

水素処理重パラフィン系石油留分

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

他の有害影響

この物質／混合物は0.1%以上の濃度で難分解性で高蓄積性および毒性を有する物質（PBT）または極めて難分解性、高い生体蓄積性を有する物質（vPvB）と懸念される物質を含有していない。

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄方法：「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び地方条例に定められた方法に従って、焼却等の処理を行う。委託する場合は、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

汚染容器及び包装：廃容器は内容物を十分除去した後に、法規に従い廃棄する。

14. 輸送上の注意

道路及び鉄道輸送に関する分類（ADR/RID）：

Not regulated for transport

海上輸送に関する分類（IMO-IMDG）：

Not regulated for transport

MARPOL 73/78 の Annex I

または II および IBC また

は IGC コードに従い積荷を

運搬する。

Consult IMO regulations before transporting ocean bulk

航空輸送に関する分類（IATA/ICAO）：

Not regulated for transport

国内規制がある場合の規制情報

消防法

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

情報無し。

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。輸送分類は容器の大きさや国や地域の法令により異なることがあります。追加情報は、弊社の営業担当者またはカスタマーサービスより入手してください。この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用される全ての法律、規制、規則に従ってください。

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化審法

特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

化審法 - 既存化学物質及び新規化学物質リスト (ENCS)

意図的使用成分はすべてインベントリー収載済みないし収載免除ないし供給元認証となっている。

労働安全衛生法**名称等を通知すべき危険物及び有害物**

法第 57 条の 2（施行令別表第 9）

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲
水酸化カルシウム	>= 40.0 - < 50.0 %
固形パラフィン	>= 1.0 - < 10.0 %
鉱油	>= 40.0 - < 50.0 %

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条（施行令第 18 条）

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲
水酸化カルシウム	>= 40.0 - < 50.0 %
固形パラフィン	>= 1.0 - < 10.0 %
鉱油	>= 40.0 - < 50.0 %

特定化学物質障害予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

健康障害防止指針公表物質

非該当

変異原性の認められた化学物質（既存化学物質）

非該当

変異原性の認められた化学物質（新規届出化学物質）

非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一（危険物）

非該当

消防法

指定可燃物, 合成樹脂類, その他のもの, (指定数量 3000 キログラム), 火気厳禁

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法

非該当

高圧ガス保安法

非該当

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物

16. その他の情報

改訂

ID 番号：1553003 / A857 / 発行日：2022/07/18 / 版番号：2.0

最新の改訂事項は、この文書全体にわたって、左側の余白に太字の二重線で強調してある。

凡例

ACGIH	米国。ACGIH 限界閾値 (TLV)
OEL-M	許容濃度
TWA	8 時間、時間加重平均
日本産業衛生学会 (許容濃度)	日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I. 化学物質の許容濃度

その他の略語の全文

AIIC - オーストラリアの工業化学品インベントリ; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト (カナダ); ECx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジュール; ENCS - 化審法の既存化学物質リスト; ErCx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 世界調和システム; GLP - 試験実施規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50% 阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法 (日本); ISO - 国際標準化機構; KECI - 韓国既存化学物質名録; LC50 - 50% 致死濃度; LD50 - 50% 致死量 (半数致死量); MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n. o. s. - 他に品名が明示されているものを除く; Nch - チリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性・生体蓄積性・有毒性 (物質); PICCS - フィリピン化学物質インベントリ; (Q)SAR - (定量的) 構造活性相関; REACH - 化学物質の登録、評価、認可および登録 (REACH) に関する規則 (EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TECI - タイに既存の化学物質のインベントリ; TCSI - 台湾化学物質インベントリ; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法 (米国); UN - 国連; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

デュポン・東レ・スペシャルティ・マテリアル株式会社は、お客様や (M)SDS の受領者の皆様が、この (M)SDS の掲載データや、この製品に伴う危険有害性を認識し理解するために、(M)SDS を慎重に検討され、必要に応じて適宜しかるべき専門家にご相談されるようお願いしております。掲載内容は誠

意をもって提供したものであり、上述の発効日の時点で正確なものであると考えております。ただし、明示および黙示の保証を行うものではありません。法令の要求事項は、改正されたり、地域により異なることがあります。使用に関する適用法令の遵守は使用者の責任です。ここに掲載された情報は出荷した製品についてのものです。製造会社は製品の使用条件について関知するところではありませんので、製品の安全な使用条件は、使用者の責任において決定して下さい。各製造会社固有の(M)SDSなどの情報源が増加していますが、弊社は弊社以外の製造会社から入手した(M)SDSに関しては一切責任を負いません。他の情報源から入手した(M)SDSをお持ちの場合や、お手元の(M)SDSが最新版であるという確信が持てない場合は、弊社にご連絡ください。

JP